

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成19年度病害虫発生予察特殊報第5号について

南大隅町のピーマンでナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferrisの発生が認められ、特殊報第5号を発表したので送付します。  
なお、病害虫防除所ホームページ ([www.jppn.ne.jp/kagoshima](http://www.jppn.ne.jp/kagoshima)) にも掲載しています。

病害虫発生予察 特殊報第5号

平成20年2月15日  
鹿児島県病害虫防除所

1 病害虫名 ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferris

2 作物名 ピーマン

3 発生確認及び発生状況

発生確認年月日 平成19年11月11日

発生地 南大隅町根占山本

同定確認 平成19年11月27日 門司植物防疫所

発生確認の経緯

平成19年11月に南大隅町根占の減農薬栽培の施設ピーマン2ほ場で、コナカイガラムシ類の発生がみられ、門司植物防疫所に同定を依頼した結果、ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferrisと確認された。

本虫は平成15年4月に高知県で初めて報告され、これまで長崎県(平成16年9月)、愛知県(平成16年10月)、茨城県(平成16年12月)、奈良県(平成17年11月)、京都府(平成18年10月)及び本県の7府県で確認されている。

4 形態及び生態等の特徴

**形態:** 雌成虫は、長楕円形で体長3~5mm。体色は灰色で、体表は白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁のロウ物質の突起は18対あるが、短く目立たない(写真1)。

**生態:** 単為生殖で卵胎生を行い、卵のうを形成せず直接産仔する。3齢幼虫を経て成虫となり、年に数世代を繰り返す。

**被害:** 主に葉、茎に寄生し、希に果実でも寄生がみられる。成幼虫の吸汁による生育阻害や排泄物によりすす病が発生し、葉や果実などを汚す。

**分布:** 北南アメリカ大陸、ハワイ、ミクロネシア、東南アジア、イスラエル、アフリカ南部、西アフリカ(カーボヴェルデ群島)、イタリアに分布している。

**寄主植物:** ヒガンバナ科(アマリリス、スイセンなど)、キク科(キク、アスター、ヘリアンサス、ノゲシなど)、バンケイソウ科(エケベリア)、アブラナ科(ダイコン、キャベツ)、ナス科(ナス、ピーマン、トマト、タバコ、ジャガイモなど)、クサトベラ科(スカエボラ)、アヤメ科(アイリス)、マメ科(ササゲなど)、ユリ科(アスパラガスなど)、ラン科(デンドロビウム)、スベリヒコ科(ポーチュラカなど)、ミカン科(ライム)、スマレ科(パンジー)、ショウガ科(クルクマ)など30科におよび、野菜類、花き類、観葉植物、果樹類など広範囲の作物を加害する。

5 防除対策

(1) 発生は、最初施設内の一部から始まりその後拡大するので、早期発見に努め、見つけ次第捕殺するか発生部位を除去する。

(2) 本種は寄主範囲が広く、観葉植物や雑草などにも寄生するため、栽培作物以外の植物の施設内への持込を避け、施設内外の除草に努める。

(3) ピーマンではアクタラ顆粒水溶剤が登録されている。上記の耕種的防除を実施した上で必要に応じて散布する。

6 その他

既発生県では、減農薬栽培のピーマンなどで本種が発生しており、減農薬栽培の施設野菜で注意が必要である。



【写真1】雌成虫（体長3～5mm）



【写真2】ピーマンの葉裏に群生しているナスコナカイガラムシ。  
多発すると吸汁による生育阻害や排泄物によるすす病が発生し，葉や果実などを汚す。